医療法人社団浅ノ川
浅ノ川総合病院 広報誌
ASANO CHANNEL

あさのちゃんねる

vol.32
2020年 新春号
（年4回発行）

特集

「地域医療連携の架け橋となり、切れ目のない医療を提供」

駒井事務長インタビュー

連携登録医のご紹介

かがやきクリニック

院長 清水 雄三 先生

病院の理念　救急から在宅まで、地域の医療を守り支える病院を目指します。

病院の方針

- 【地域連携】医療・介護・福祉が一体となった切れ目のない医療サービスを提供し、地域医療の充実に努めます。
- 【救急医療】断らない救急医療を目指します。
- 【予防医学】健康診断を推進し、病気の予防・早期発見に努めます。
- 【チーム医療】患者さん中心のチーム医療を実践し、安全で質の高い医療の提供に努めます。
- 【人材育成】次代の医療を担う信頼される人材の育成に努めます。

特集 事務長インタビュー・新年のご挨拶

地域医療連携の架け橋となり、切れ目のない医療を提供

2019年11月1日、新事務長に駒井啓吾が就任しました。安心した医療を提供するために当院が果たすべき役割とは何なのでしょうか。新年にあたり、展望と抱負を伺いました。

事務長

駒井（こまい） 啓吾（けいご）

臨床検査技師
認定病理検査技師
国際細胞検査士
認定心理士

趣 味

孫と芝生の手入れ（どちらも成長が楽しみ）

健康法

1日2食の生活、豆腐を食べること

座右の銘

品性向上、常に謙虚であれ

地域包括ケアシステムで当院の役割とは

皆様方に新年のお喜びを申し上げます。日頃から当院を信頼し、ご利用いただいております患者さんに感謝申し上げます。また、連携をいただいている医療機関の先生方、患者さんのために日々救急搬送にご尽力いただいている救急隊員の方、さらには介護施設、療養施設の方におかれましては皆さんのご協力のおかげをもちまして患者さんへ切れ目のない医療が提供できておりますことに厚く御礼申し上げます。私は2019年11月1日に事務長に就任しました。新年の門出に、当院が目指すビジョンについてお話したいと思います。

ご存知のとおり医療を取り巻く環境は大きく変化しています。いわゆる団塊の世代が75歳以上となる2025年問題、日本の高齢者人口がピークを迎える2040年問題が医療に与える影響は大きく、その解決策の要となっているのが国の推進する地域包括ケアシステムです。これは患者さんが重度の介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように医療、介護、福祉サービスなどを一体的に提供するしくみのことです。このシステムを構築するためには地域のクリニック、他の医療機関、介護施設、福祉施設との密な連携が欠かせません。当院で治療をした急性期の患者さんが地域へ戻り、無理なく自宅療養できるようにかかりつけ医と連携した医療を提供することが私たちの役割です。例えば整形外科で手術をした患者さんが、早期に自宅復帰できるよう、リハビリテーションに力を入れていま

す。また、当院より大規模な医療機関で治療される高度急性期の患者さんが回復し地域へ戻る前に一旦当院で治療を引き継ぎ、経過を見ながらかかりつけ医へバトンタッチすることもあります。このような一連の流れをスムーズに行うために当院では地域連携部を設置し、地域の医療機関、介護施設、福祉施設と患者さんとの架け橋になっています。

がん、救急、地域連携を3本柱として医療を提供

当院が地域で果たす役割の3本柱として掲げているのが、「がん医療」「救急医療」「地域連携」です。当院のがん医療ではこれまでもガンマナイフ、ノバリスといった身体への負担が少ない定位放射線治療を行ってきましたが、その他にも新しい治療法の導入を検討していきます。検査方法でも、血液1滴で数種類のがんを早期に発見できる検査キットなど患者さんのメリットが大きいものは積極的に取り入れていきます。今は2人に1人ががんになり、そのうち3人に1人が就労可能という時代ですから、働きながらがん治療ができるような環境を整備していくことも必要だと考えています。救急医療では患者さんをスムーズに搬送できるように必要な改善点を救急隊員からヒアリングし、迅速に対応していきます。救急隊員からの搬送要請に対し、これまで以上にすばやい返答ができる体制を整え、ハード面でいえば病院建物に搬入がしづらい段差がないか、大雪となった際に障害となるような場所はないか、細かいところまで確認し、改善していきます。地域連携に関しては先ほどお話した地域連携部の機能を強化し、これまで以上に円滑な地域医療を提供することが最重要課題です。

患者さん、医療スタッフともに幸せになる医療環境を

私が当院の検査部へ入職したのは平成元年(1989)です。当時、病理検査の体制は未完成で、それを一から整えていくことにやりがいを感じました。病院は新築移転したばかりで、最新の医療機器が整っていたことも魅力でした。また、自分の家族が患者としてお世話になっており、今度は職員として恩返しがしたいという思いもありました。入職後は検査技師として救急医療にも携わり、緊急時にすぐに対応できるよう当番の日には心電図室で寝泊まりしたことを懐かしく思い出します。その後、検査部長を経て、事務職へのお話をいただいた時は驚きました。検査技師として、なかでも特殊な細胞検査士の仕事に誇りとやりがいを持っていたため、一旦は断ったものの、これは宿命という思いから引き受けることにしました。また、コメディカルから事務職への転身は相当な覚悟がいるもの。決意の証として自分の顕微鏡を理事長にお預けし、今もそのままです。

学生時代はスポーツに取り組み、野球部ではキャッチャーでキャプテン、バレーボール部ではセッターで副キャプテンをしていました。いずれのポジションも司令塔であり、サポート役でもあります。今の事務長の役割に通じるところがあり、ピッチャーやアタッカーである病院職員の皆さんに良いプレーをしていただくことが私の役割です。目標はやはり患者さん第一で、地域の皆さんに安心して医療を受けていただき、当院が必要な存在であり続けることです。そのためには働き方改革を進め、医療を提供する側である医療スタッフや事務職員の皆さんの満足度を上げていくことも急務だと考えています。当院をこれまで以上に進化させていくために、患者さんをはじめ、連携先の先生方、当院で働く職員や救急隊員の皆さんからも幅広くご意見を伺いたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和元年度 外来患者満足度調査結果　患者満足向上委員会（満足度調査班）

「救急から在宅まで地域の医療を守り支える病院を目指します」を病院の理念として掲げて、外来医療の質や、環境を改善する事を目的として患者さん及び家族の方々にアンケート記入をお願いし、職員と設備に対する満足度について調査させていただきました。

Ⅰ．満足度の調査方法

「非常に満足」、「やや満足」、「やや不満」、「非常に不満」、「その他」の5段階評価

Ⅱ．調査期間

令和元年12月２日（月）～４日（水）（9:00 ～ 12:00）

Ⅲ．受診科・回答数

全回答数：389件……内訳：内科（76）整形外科（30）外科（19）脳神経（45）眼科（21）その他（12）皮膚科（16）
形成外科（15）婦人科（10）耳鼻科（19）複数科（34）泌尿器科（21）記入なし（71）

Ⅳ．調査結果

1. 各項目に対する満足度の結果（グラフ参照）

- 医師による診療・治療内容、看護師による看護や対応、受付スタッフによる説明や対応、放射線技師による説明や対応、検査技師による説明や対応については、満足度が前年度より上昇しました。
- 薬剤師による説明や対応、リハ療法士による説明や対応、診療時のプライバシー保護の対応については、満足度が前年度より若干低下しました。
- 病院の設備については、満足度の変動はありませんでした。

2. 記述回答の結果（一部抜粋）

良い意見

- この病院は初めてですが、どの部署でも優しくしてくださり、ありがとうございました。
- 全体的に明るくなったような気がします。笑顔が良いと思います。
- 病院内に検査室の場所など、たくさんの看板や目印があって分かりやすいです。
- すてきなスタッフばかりです。
- 以前に比べて待ち時間が短くなった。スムーズになった。

悪い意見

- 受付スタッフにもう少し明るい対応求めます。
- 駐車場に水たまりが多く停めにくい。駐車場不足。
- 電光掲示板で受付番号での表示があるのになぜ名前で呼び出しするのでしょうか。
- 予約しているのに、待ち時間がかかり過ぎる。
- 会計の待ち時間がとても長いと思う。自動精算機を導入したらどうでしょうか。

Ⅴ．悪い意見に対する対応策

- 受付スタッフ対応の件は、改善すべく話し合いの場を持ちました。指摘されたことを受けとめ患者さんの視点に立ち改善していきます。
- 駐車場の件は、例年多くの方々から改善が必要であるという意見があるため、敷地内整備、誘導係による適正な誘導や、混雑の緩和に努めていきます。
- 受付番号呼び出しの件は、反応がない場合等において名前で呼び出ししていましたが、今後は受付番号で呼び出しをおこない、プライバシーに配慮していきます。
- 診察待ち時間の件は、電光掲示板の活用や、待合室での気配り・声掛けを継続するほか、他院の取り組みも参考に改善に努めます。
- 会計までの待ち時間に関しては、清算レジ1台を増設し、paypay等キャッシュレス対応を行いました。自動精算機導入も検討していきます。

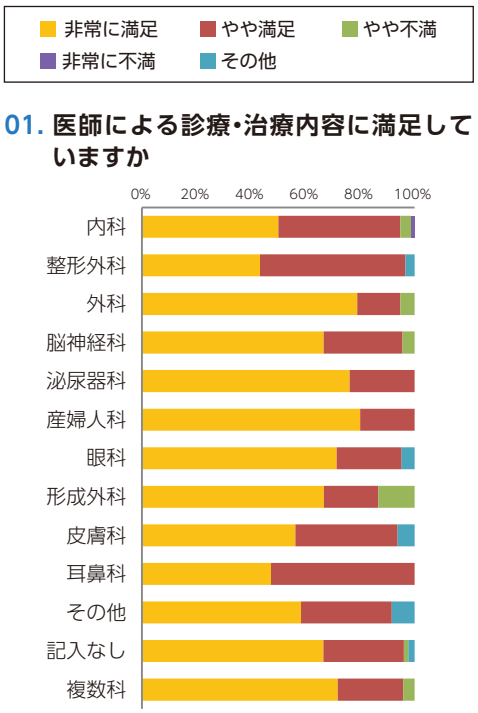
Ⅵ．今後の課題

1．待ち時間短縮に向け改善を図る。
2．職員が言葉遣い、対応、プライバシーが配慮できるよう接遇向上を目指す。
3．駐車場対策を強化する。

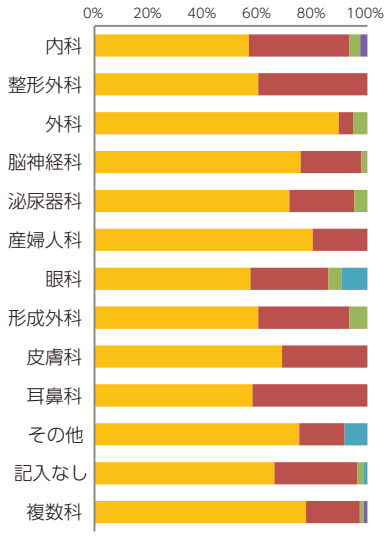
今回の患者満足度調査の結果は全体的に好評でした。しかし厳しい意見もあり、この結果を受け止め職員一人一人が創意工夫し医療サービスの向上を図りたいと思います。

本調査は定期的に行っています。アンケートにご協力いただいた方々には、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。今後も継続した調査を行い、患者満足度向上に一層努力していきたいと思います。

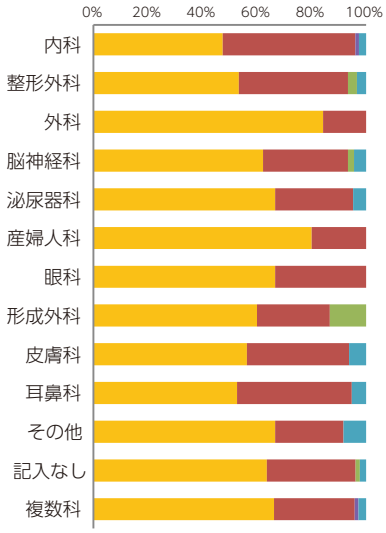
満足度調査結果グラフ



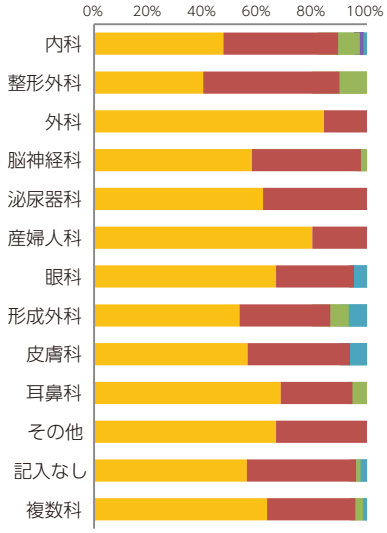
02. 医師との対話に満足していますか



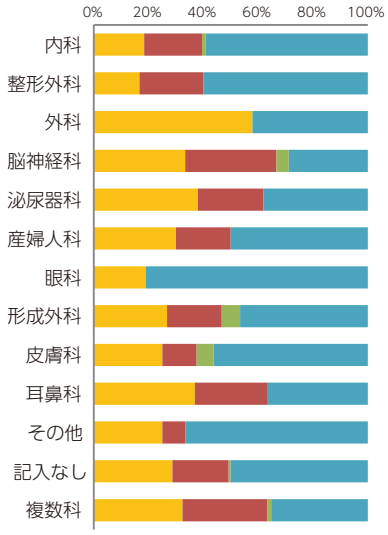
03. 看護師による看護や対応などに満足していますか



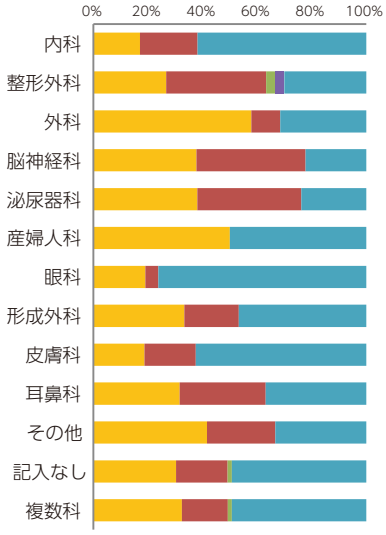
04. 受付スタッフによる説明や対応に満足していますか



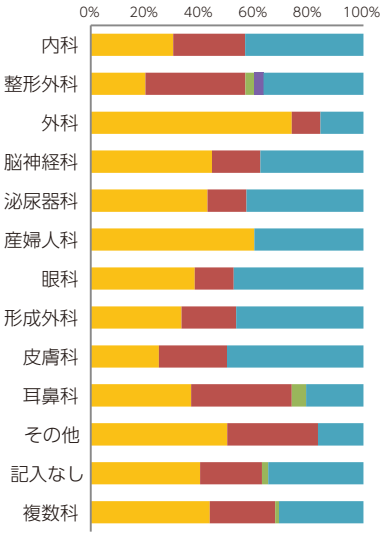
05. 薬剤師による説明や対応に満足していますか



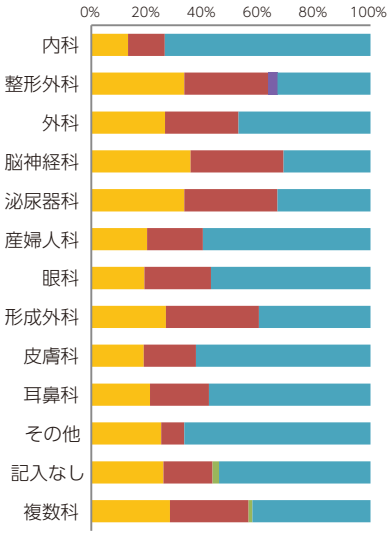
06. 放射線技師による説明や対応に満足していますか



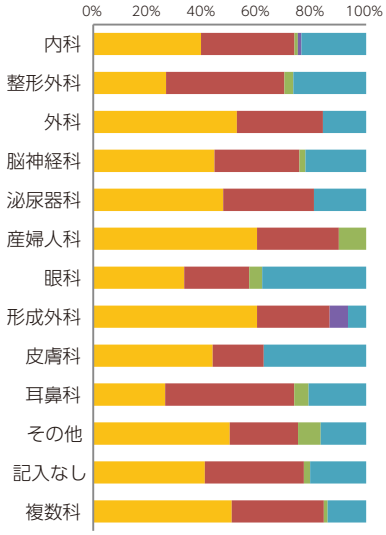
07. 検査技師による説明や対応に満足していますか



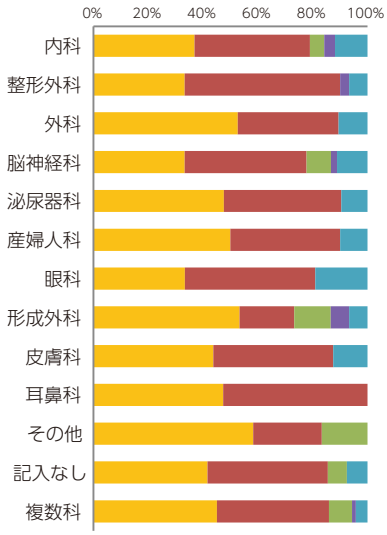
08. リハ療法士による説明や対応に満足していますか



09. 診療時のプライバシー保護の対応に満足していますか



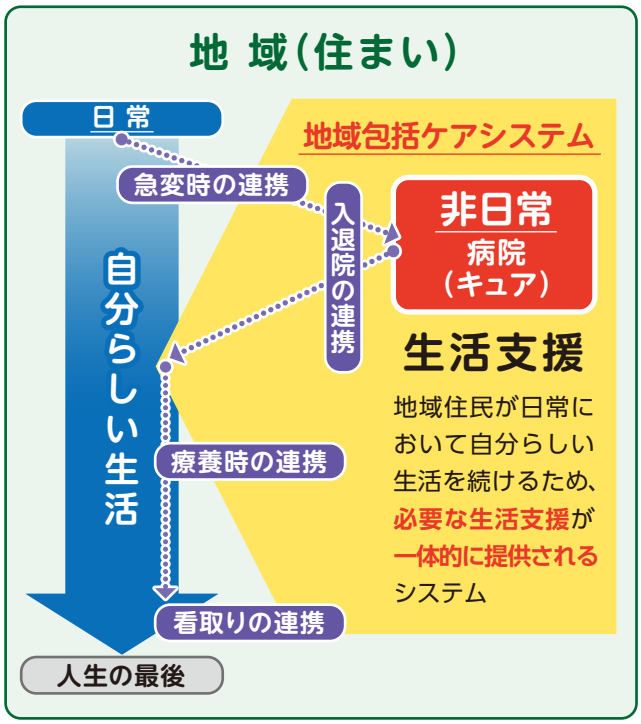
10. この病院の設備について満足していますか



Pick UP! 地域連携部のご紹介

地域連携部の理念

『地域の方々と心と心でつながり、地域包括ケアシステムの充実と発展を目指します。』



地域連携部
～地域包括ケアシステムの充実と発展～

地域の方々が住み慣れた地域で自分らしい生活を人生の最後まで送る。その日常の生活において、病院という環境は、患者さんにとって非日常です。治療のために日常から非日常へ、治療が終了して非日常から日常へ、その際に生ずる様々な不安を安心に変える。地域連携部は、構成する４部署（地域医療連携室、入退院支援センター、医療福祉相談室、がん相談支援室）がそれぞれの特徴を生かした支援を行うとともに地域の方々と**『つながる』**ことを強化し、日常の生活に必要な医療・介護・福祉等の支援が一体的に提供されるように努めています。

また、地域の連携ネットワークへの参加や浅ノ川グループ内の検討会を通じて地域にある様々な考え方や情報共有の手段や様式、研修会等を**『まとめる』**ことができるよう取り組んでいます。

構成スタッフ 24名

医師	1名
看護師	6名
MSW	7名
救急救命士	1名
事務員	9名

地域医療連携室
～急変時の連携～

地域医療連携室は、地域の方々が急変時に安心して医療サービスを受けられるように医師や看護師、救急救命士、事務員が地域の医療機関や救急隊等と日々の業務（紹介・救急に関する対応や情報管理）や互いを知る機会（研修会や検討会の開催）を通じて連携の強化を図っています。

入退院支援センター
～入退院の連携～

入退院支援センターは、生活の場からの入院や病院からの転院に対し、当院にて安心して治療を受けていただけるよう入院前より看護師や医療ソーシャルワーカーが支援します。また、入院中の不安に対し、院内の多職種と必要なチームを形成して支援するとともに退院後の生活への不安に対し、地域の多業種・多職種と連携し、生活に必要な支援が一体的に提供されるように努めています。

医療福祉相談室
～療養時の連携～

医療福祉相談室は、地域で生活される方やその家族が抱える様々な不安に対し、医療ソーシャルワーカーが相談をお受けしています。安心して生活が継続できるように必要に応じて地域の各種サービスにお繋ぎしています。

がん相談支援室
～療養時・看取りの連携～

がん相談支援室は、がんになられた方やその家族が抱えるがんに関する様々な不安に対し、看護師や医療ソーシャルワーカーが相談をお受けしています。必要に応じて院内専門職種と連携し協力して支援いたします。

連携登録医のご紹介

今回は、金沢市疋田町の『かがやきクリニック』をご紹介いたします。

私は「医療の谷間に灯をともす」を理念とする自治医科大学を卒業しました。卒後研修の９年間で、治療の大切さだけでなく、その人が何を大切にし、どう生きてきたのかに興味を持つようになりました。そして、専門的検査や最先端医療は病院の専門医の先生方にお任せし、在宅医療の世界に飛び込む決意をしました。平成26年のことでした。

それから4年後の平成30年10月に、金沢市疋田に訪問診療がメインのかがやきクリニックを開業しました。当院では「住み慣れた家で、できるだけ長く楽しく過ごしたい」という本人の気持ちを第一に考えることを理念としています。在宅医療の相談だけでも構いませんのでお気軽にご相談下さい。

浅ノ川総合病院は連携医療機関として、在宅医療のバックアップとして緊急搬送も快く受け入れて下さり、私たち医療者も本人、家族さんも大変安心しております。今後ともより良い病診連携を深めていきたいと思っております。

院長 清水 雄三 先生

かがやきクリニック

診 療 科：内科一般
専門領域：在宅医療、在宅緩和ケア
専門医資格：日本内科学会総合内科専門医
日本医師会認定産業医
石川県医師会認定かかりつけ医
略　　歴：平成17年自治医科大学卒業。
愛媛県立中央病院での初期研修後、輪島病院、
舳倉島診療所所長、穴水総合病院、
松野町国保中央診療所副所長、
石川県立中央病院救急科、珠洲市総合病院、
野々市よこみやクリニックを経て、
平成30年10月かがやきクリニックを開業。

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～16:00	△	△	△	△	△	／	／
16:00～17:00	○	○	○	○	○	／	／

休診日：土曜日、日曜日、祝日　※△：訪問診療と往診
※緊急往診等で不在のこともあるため、外来受診の際は事前に電話連絡をお願いします。

住　　所：〒920-0003
金沢市疋田1丁目213番地
電　　話：076-253-5001
駐 車 場：あり
アクセス：北鉄バス 疋田東 下車徒歩1分

クリニック外観

連携登録医とは

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。

行事レポート

第9回 浅ノ川総合病院 救急症例検討会

当院では救急隊との連携を強化し、救急医療の向上を図るため、救急症例検討会を年1回開催しております。令和元年11月15日(金)、当院にて「第9回 浅ノ川総合病院 救急症例検討会」を開催し、救急隊員・当院職員を合わせ、95名が出席しました。

実際の救急搬送症例を基に行う症例検討として、「低血糖」「脳出血」について活発な議論を行いました。特別講演では、当院脳神経外科部長 光田 幸彦医師が「意識障害を伴う疾患について」と題し、意識障害を起こす様々な疾患の鑑別や対処方法などについて講演しました。

出席された救急隊員の方々からのアンケートでは、「非常に有意義な内容でした。」「現場活動に大変活かせる内容でした。」「次回も参加させていただきたいと思います。」などのお言葉をいただきました。今後も当院は、地域の救急隊と「顔の見える連携」を推進し、より良い救急医療を地域に提供できるよう努めていきます。

光田 幸彦 医師

呉 隆進 医師

第11回 定位放射線治療セミナー

令和元年11月29日(金)、マリエールオークパイン金沢にて「第11回 定位放射線治療セミナー」を開催し、石川県内外の医療機関からの参加者・当院職員を合わせ84名が出席しました。

基調講演では、当院定位放射線外科センター長 光田 幸彦医師が「ガンマナイフパーフェクションを用いた転移性脳腫瘍の治療と痙攣発作のコントロール」について講演しました。特別講演では、「脊椎転移の根治的再照射」と題して、都島放射線科クリニック 院長 呉 隆進医師がご講演されました。

講演会終了後には情報交換会が行われ、親睦を深めました。今後も当院は定位放射線治療の充実と連携を推進していきます。

お知らせ

PayPay(ペイペイ)がご利用できるようになりました

当院ではスマートフォンで簡単にお支払いできるPayPayを導入致しました。スマートフォンのアプリから当院のQRコードを読み取ることでお支払いができるようになります。

外来診療費、入院診療費、健診費のお支払いにご利用可能です。お支払い時にPayPayでのお支払いを受付・会計、健診センタースタッフにお申し付けください。

お問い合わせ先
広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。
TEL:076-252-2101(代)　URL:http://www.asanogawa-gh.or.jp/
メールアドレス:kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp

発行／編集　医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 広報室　〒920-8621 石川県金沢市小坂町中83番地　TEL:076-252-2101